

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970700431		
法人名	特定非営利活動法人かけはし		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	栃木県日光市森友15109番地61		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、住宅街の一角にある学生寮再活用した二階建ての築後数十年経った民家で南側一面田んぼで日当たりも抜群に良いところです。自治会に入り地域のゴミ拾や催しものに積極的に参加しています。また日常においては、散歩等を通じ地域住民と挨拶を交わしたり徐々に輪が広がってきています。年間行事に基づき、2ヶ月に一回のペースで避難訓練を実施しています。消防署のご指導のもと消火器の使い方や避難経路時の注意点などの指導を受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは居間から田んぼや林が見える日当たりのより立地環境にある。隣人から頂いた野菜やホームの庭で育てた野菜を使用しバラエティーに富んだ食事を提供している。定員が6名という少人数なので、入居者は家庭的な雰囲気と環境のなかで生活することができる。ホームで飼っている猫がおり、入居者と一緒に昼寝をするなど、ほのぼのとした時間が流れている。避難訓練では、避難した入居者の見守りを近隣の方々が行ってくれるなど、地域との協力関係ができています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成22年8月23日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、ゆったりと安心して暮らせることを目的として、一人ひとりの個性を尊重し、能力を發揮できるよう支援します」を理念に掲げ、居間に掲示してある。入職後の1ヶ月研修や2ヶ月に1回開催されるスタッフ会議の中で、理事長が理念について話し、職員への周知を図っている。	「その人らしく、ゆったりと安心して暮らせることを目的として、一人ひとりの個性を尊重し、能力を發揮できるよう支援します」を理念に掲げ、居間に掲示してある。入職後の1ヶ月研修や2ヶ月に1回開催されるスタッフ会議の中で、理事長が理念について話し、職員への周知を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り地域のゴミ拾いや催しものに参加している。また、散歩等を通じ地域住民と日常的に交流している。	自治会に加入し年2回のごみ拾いに職員が参加したり、入居者と一緒に回覧板を回している。隣人から畑で取れた野菜を頂いている。また、避難訓練の際には避難した入居者の見守りなどの協力を得ている。	保育園や小学生との交流やボランティアの受け入れなど、近隣住民に限らず交流の場が広がることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所に一緒に行き認知症の方が起こりえる行動について理解をして頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で報告や話し合いを問題ごとに対してアドバイスをもらっている。	運営推進会議は3、4ヶ月に1回、開かれる。市職員・地域包括支援センター・民生委員・家族が参加し、施設の現状報告を中心に話し合いがされている。参加者の都合で開催日が平日に限定されているため、参加メンバーが限られている。	同じメンバーでの開催だけではなく、地域の関係者や消防団などを招いたり、より多くの家族の参加を呼びかけて、多様な意見を聴取しサービスの向上に活かして欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題事項について市の担当者に相談したり助言をもらっている。	市の担当者とはホームのことや入居者のことで連絡を密に取っている。現在は、連携を図らなければならないような困難なケースがないので、地域包括支援センターと日常的に連絡を取ることはない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のおそれのある方がいるため玄関には常にチェーンを掛けている。	以前、入居者がホームから離脱し警察や近隣の方にお世話になったことがあった。それで玄関には徘徊防止の為に常にチェーンがかけられている。スタッフ会議の中でも話し合いがされているが改善には至っていない。	入居者一人ひとりの行動を把握し、運営推進会議やスタッフ会議の中で全職員が「鍵をかけないケア」について話し合い、実践に結びつけられるよう期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きていないか注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会は現在とっていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際家族の方が抱えている問題点に対し説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会などを通じての意見を参考にし運営に反映している。	年2回の家族会では、家族間の交流を図る目的で食事会を開き参加者も多い。家族からは、ホームへの要望というよりも個別ケアについての要望が多く出されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中やスタッフ会議の際に意見や提案を聞いている。	職員からは入居者に対する支援のあり方や、施設の設備面での要望があった。床の間を戸棚にしたり、水道の蛇口を混合栓に変えるなど、工事の際には、職員と業者が直接話し合い、使いやすいように改修した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加やホーム内での育成をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に他の施設との交流会や勉強会は現在行っていないが県のグループホーム協会主催の研修会に参加し同業者と交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際本人に会いに行ったりホームに見学に来てもらったりして直接意見を聞く機会をもうけている。また入居時しばらくは、環境も変わるため注意深く接するようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際家族が抱えている問題点や悩み事、生活するうえでの要望について意見を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供者の意見を聞き必要としているサービスを提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力が残っている部分に対しては本人に行ってもらいともに生活している関係をとっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に外出や外泊等に協力してもらい共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方に合った関係性を維持できるように支援している。	家族の面会の際には自室で過ごしてもらっている。また、家族と外出した時に知人やなじみの場所に連れて行ってもらうなどしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士話を聞きながらお互いを支えあって生活しているが、認知症の進行により攻撃的になってしまうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催しものお知らせ等をし継続して付き合いが出来るようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々思いや希望に添えるよう心がけている。また、仕草や表情などから把握できるように努めている。	入居者から「家に帰って息子の食事を作らないと…」などの発言が聞かれた際には、家族に連絡をして面会に来てもらうこともあり、普段から会話の中で本人の意向を汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際、家族やケアマネージャーから情報を収集しこれまでの経過について把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックをおこない心身の状況を把握している。また、見守りをしながら一人一人が好きなように過ごしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングをしている。家族に希望を聞いたり、スタッフ全員の意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	2ヶ月に1回のスタッフ会議の中で全職員からの意見を取り入れたり、家族の情報や要望などを考慮して計画書を作成している。また、会議の中で入居者全員のモニタリングを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼間・夜間の様子を個人記録し職員間での情報共有に役立てている。また、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を理解し必要に応じた対応やサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に等に参加し楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する家族には、継続して受けられるように支援している。	入居時に家族から了承を得て主治医を協力医に変更している。毎週協力医の往診があり、夜間や緊急時には協力医に連絡を取りすぐに対応ができる体制になっている。協力医が内科のため、他の科は家族が介助して受診している。看護職員が配置されていないため、普通救命講習を受けている職員もいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族の方と情報交換や相談をし早期に退院できるよう働きかける。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、家族に対してターミナルケアができないことを説明している。重度化した場合、今後について家族の方と話し合いの場をもうけたりしている。	介護が困難になった時や医療が必要な状態になった時にはホームでの対応が困難である旨を、入居時に家族等に説明し理解を得ている。重度化した際には、今後の方針についての相談や支援を行い、次への移行がスムーズにできるように対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練の機会はまだないが急変した時は、提携している医師に連絡を入れる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回のペースで避難訓練(防災・地震)・昼間と夜間を想定して実施している。また室内に防災頭巾や非常食品を置き避難時に備えている。	職員・入居者に避難方法を周知できるように、2ヶ月に1回近隣の方の協力を得て避難訓練を実施している。食堂とリビングの部屋に防災頭巾が置いてあり、1週間分の非常食も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉かけや対応をしている。	職員採用時に人格の尊重、プライバシーの重視を徹底している。入浴や着替えの拒否が見られる方にはその人にあった言葉かけでの対応をしている。入居者それぞれの呼称は家族の情報や利用者の表情から判断して決めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活や会話の中で思いや希望を表わせるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り個々の希望に添えるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合ったおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片づけを利用者と一緒に行っている。また、職員も利用者と同じものを食べている。	献立はあらかじめ立てていないが、職員が作る食事は栄養のバランスもとれバラエティー豊かなメニューになっている。職員も一緒に食卓を囲み、食の進まない人には会話しながら介助している。入居者は野菜の下ごしらえや食器ふきをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせて食べれる量や水分の量を把握しながら支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内にトラブルがある人の場合のみ毎食後行っている。声かけや介助にて食後歯磨きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣に合わせ、見守り・介助している。	排便チェック表はあるが排尿チェック表はない。利用者の習慣やそぶりで誘導している。失禁が増えた時には声かけをまめにすることで対応している。	排尿チェック表はおむつ等の消費量を家族に知ってもらうためにも必要だと思われるので、記録の工夫をして欲しい。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に注意したり水分の摂取や薬により便秘を予防している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	4日に1回の割合で入浴をしているが汗をかいた時はシャワー浴をしている。入浴時間は、本人が満足できるまで入ってもらっている。	入浴は3日に1回だが入浴日以外にもシャワー浴ができる。家庭用の少し深い浴槽なので、イスを中に入れて入りやすくしたり、脱衣室からの段差もマットを敷いて解消し安全に入浴ができるよう工夫している。冬には脱衣所に暖房を入れる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて居室やソファで休息している。夜間寝付けない方には、眠剤を使用している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬についてのファイルを作り、いつでも見て確認することができるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室やホーム内を掃除したり洗濯物たたみ等を役割として行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	涼しい時は、近所を散歩したり買い物に出かけている。また、家族の方が外食に連れ出している。	気候のよい時は毎日散歩をし、徒歩や車で買い物に行ったり、職員と一緒に回覧板を届けに行ったりしている。退職した職員の協力を得たり家族の参加により年1回市のバスを借り遠出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している人は、いない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時家族と連絡が取れるように電話使用を許可している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースを畳からフローリングにかえ窓をつけ光が入るようにした。	ホーム内はすっきりと清潔感がある。台所付の居間は日当たりのよい南向きで、窓から庭や田や林が見える。食卓、ソファの他、座卓(冬は炬燵)のある畳スペースもある。食事の支度が始まると調理の音や匂いがしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやこたつを置き思いのまま過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いに慣れたものを、そのまま持ち込めるようにして居心地良く過ごせるよう支援している。	居室にはエアコンが設置されていて快適に過ごせる。ベッドやタンス、位牌が置いてあり、家族の写真やプレゼントが飾ってある。ホームの飼い猫と一緒に昼寝をしている入居者もいた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し生活の中でいかせるように支援している。		